〈午前１０時５４分　休憩〉

〈午前１１時０５分　開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本　剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。　〔３番　山本　剛君登壇〕

○３番（山本　剛君）

おはようございます。清政クラブの山本　剛です。１回目の質問をさせていただきます。

１、人口減少問題について。

(1) 糸魚川市の人口減少の現状はいかがでしょうか。

平成２７年１０月に策定された「糸魚川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」人口の将来展望に、グラフで２０２０年から１０年ごとの国立社会保障・人口問題研究所の推計と将来展望期待値とありますが、２９年現在での人口の推移はいかがでしょうか。

(2) それまで、この人口減少問題に対して、いろいろな施策を行ってきたと思います。その中でこの期待値、さきに挙げました期待値ですね、を目標値として捉えていいのでしょうか。これまで行ってきたさまざまな施策の効果の有無を、どのように捉えているか、お伺いしたいと思います。

(3) 人口減少の大きな要因をどのように分析しているか。

①　自然動態はどうか。

②　社会動態はどうか。

２、へき地診療所整備事業、根知診療所の移転整備について。

平成３０年度の当初予算案に、根知診療所の移転整備が掲げられています。現在、借家での診療を行っていて、移転し整備は必要とは思っておりますが、診療は月に２回で、年間で診療人数は８０名強とのことです。

今後、ますます根知地区の人口が減少する中で、ほかの方法はないのでしょうか。私は診療ができるバスを購入することで対応ができるのではないかというふうに考えております。

診療バスが法的に可能なら、現在の診療所のない地区に出向くこともでき、あるいはほかの僻地診療所が閉所してもカバーでき、有効度がますます上がると考えます。受診者が少なければバスが受診者宅に行くことも可能になるかとも思います。

診療バスが法的で可能なのか、コスト面などで調査検討をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

３、公共交通問題について。

現在、建設課で地域公共交通再編実施計画におけるバス路線の確保と利用促進で、各地区に出向

いて、市民の意見を集約していると思います。

私も須沢地区で、その意見交換会に参加しました。青海の田沢地区は今村新田の範囲で、今村新田駅は先送りとなりました。その会で、高校生のバス利用について、バス代の負担が大きく、朝の忙しい中、お母さん方が高校まで自家用車で送っているのが現状です。バス代が安ければ、利用させたいという強い要望もありました。

そこで、青海川から姫川までの青海地区内で、高校生の安価な通学パスの社会実験をしてみたらいかがでしょうか。

えちごトキめき鉄道の利用促進に、糸魚川駅の駐車場利用の社会実験が行われています。利用者の通勤パス代がどの程度なら利用するのか、バス会社が、それによって収支はどうなるのか、実験によっては有効なバス利用が可能になる可能性もあると考えます。そして、実験で有効なら、青海地区からほかの地区にも、その考え方を広げていったらというふうに考えます。いかがでしょうか。

１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、人口ビジョンの将来推計人口は、国勢調査実施年の５年ごとになっており、２７年度では国勢調査人口が、推計人口を下回る結果となっております。

２点目につきましては、期待値を目標値としており、これまで人口減少対策として、子育て支援の拡充や移住・定住施策に取り組み、最近では少しずつ成果も出てきてると捉えております。

３点目につきましては、自然動態は老齢者人口がふえ、亡くなられる方が多い一方、出生数の減少の原因が要因となっており、社会動態では、高校卒業後の就学や就職による転出が多く、その後の転入が少ないことが大きな要因となっております。

２番目につきましては、診療バスは制度的には可能でありますが、医師の確保と経費などから考えますと、当市においては、僻地診療所のほうがふさわしいと考えております。

３番目につきましては、社会実験は路線バスの新たなニーズの掘り起こしにもつながる有効な手段の１つと考えております。ご提案につきましては、運賃などサービス水準の設定に伴う収支バランスの検証のほか、対象とする利用者や範囲の設定などについては、全市的な視点において検討が必要であると考えております。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

ありがとうございます。

３０年度の当初予算のポイントの中にも、重要課題である人口減少対策、人口減少社会への対応

っていうことで、上からもう３行目、４行目にうたわれてます。ずっと２７年からも、ずっと見ましても、やはりみんな減少、人口減少問題がトップのほうに挙がってます。そんなことで、かなり苦労をしていただいてるっていうふうには考えております。

そんな中で、人口の減少ですけど、私、人口ビジョン統計糸魚川、あと国勢調査の昭和５７年からのデータもいただいて、ちょっと分析してみました。２０１０年、ゼロから４歳の人口が、合計で１，６８５人。２０２０年の先ほどの表の中で、社人研の推計は１，３２８人です。率にして、１０年間で７８．８％に減っております。そのときの将来期待値では１，５００人、２０１０年に対して８９．１％っていうふうに期待されておりますが、先ほど答弁のとおり、少ないかと思います。２７年現在では、もしよければどんな感じなのか、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

藤田企画財政課長。　〔企画財政課長　藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

申しわけございません。２０１５年の期待値と国調の差ということで、答えさせていただきますけれども、人口ビジョンでの期待値につきましては、２０１５年が４万５，２３８人ということで、その年の国勢調査の数値は４万４，１６２人ということで、ある意味１，０００人以上の減となっております。

２０１０年以前の動向と比較しますと、自然動態では出生数が、社会動態では転入が落ち込んでいる状況でありまして、やはりこういう状況も加味する中で、新年度においては、新たな国勢調査の結果も踏まえて人口ビジョンや総合戦略の見直しについても必要かなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

その後、私、２０１６年までデータいただきまして、いわゆるこの国勢調査は、ゼロから４歳まで何人いたかってことだと思うんですね。それに対して、２０１６年の出生数だけを比較してみましたところ１，３６６人、ゼロから４歳は。先ほど言った社人研の推定値が１，３２８ですから、本当にわずか上回ってるだけ。これは出生数と、いわゆるそのときの人口とは違いますんで、一概に比較はできないのかもしれませんけど、期待値をかなり裏切って、逆に社人研ですか、そちらの推定値に近いというふうに分析できるかと思います。

１０年ほど前から、いろんなことをやっていただいてるかと思うんですけど、私も分析しました。２００５年の時点で、２５歳から２９歳までの人口と、その方が１５年前になりますかね、中学生のときに値する、１０歳から１４歳までの方の、いわゆるどれぐらいの比率なのかを、ちょっと出してみました。そうしますと４５から４９歳は５６．４％、４０から４４歳が５６．９％、３５から３９が５７．５％、３０から３４歳が５８．９％、平均で５７．３％。それに対して、実は２５から２９歳は６３．７％と、実は上がってます、約６．４％上昇してます。

やはり、これは私、本当にこういうふうな形で人口問題に取り組んできた１つのプラスの部分で

はないかというふうにも見ております。努力がやはり、少しずつ実って、人口は減ってきてるけど、比率的には上がってきてるというふうに見ております。

そんな中で、次の質問ですけど、自然の減少ですけど、亡くなられる方、当然、年寄り世代が多くて少ないと思うんですけど、出生数がこの１０年で約７１．３％に減ってます。そこで、これを何とか上げるためには、やはりいろんな施策が必要だと思うんですけど、そのことについて、どういうふうに考えてるか、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

藤田企画財政課長。　〔企画財政課長　藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

自然動態見るときに、自然動態と社会動態という形で見ます。自然動態を単純に見ると、亡くなる方が多くて出生数が少ないというのが現状です。亡くなる方については、多分、もう少しすると、老年者人口も減少に転ずるんで、その時点からだんだん減少に転ずるというふうに思ってます。

やはり一番、今、危惧しているのは、出生数が少ないということで、この出生数が、本当に５年ぐらい前だと３００人を超えるぐらいの水準でずっと来てたのが、ここ５年ぐらいは３００人を切るような状況になってるということで、この出生数をいかに上げていくかっていうのが、大きな課題になってくると思います。

この出生数を上げるにはどうすればいいかという部分では、理論的には、たくさん子づくりしてねっていう部分ではあるんですけれども、じゃ、どうすればなるかっていうと、１つは合計特殊出生率を上げる、それから、未婚率が非常に最近、高くなってるところで結婚していただく、それから、もう１つはやはり、男性と女性の比率っていいますか、未婚の女性が非常に少ないっていう、そういったのを改善しなきゃいけないんですけれども、そういう中では、今度は社会動態のほうで、移住者をふやす。その際には、やはり、いわゆる生産年齢人口の移住者を、どう引っ張ってくるか、そのことが逆に、今度は出生数のほうに結びついていくものということで、理論的には説明はできるんですが、やはりそれを、成果が上がるような施策をどういうふうに打つかっていうのは、少し長い視点で見る必要もあるのかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

まさに、言われたとおりだと思うんですね。実は、私、調べてみたところ、２０代、３人に１人しか結婚していません。４０代の終わりまでで、７割程度だと思います。今、出ました男性と女性の差が、２０歳から２４歳で男性１に対して女性が７割、３０から３４歳ぐらいで５割８分ぐらい、もう４０代になると５割を切ります。いかに、女性が糸魚川から出ているかっていうことだと思います。そこらあたりは、また後で、社会動態とかそこらでやりたいと思いますけど、やはり私は、結婚をいかにしていただくかが、やはり出生数を伸ばすことだというふうに思います。

ことしの１月に新聞で、読まれた方もおるかと思うんですけど出ておりました。「糸魚川市が平

成１９年度から人口減少対策の一環として婚活支援事業に取り組んで１０年が経過した。」から始まる記事です。

縁結びコーディネーターの話です。「糸魚川市の独身者は、男女とも身だしなみやマナーがよいので、出会いがあれば結婚できる人が多い。」というような記述もあります。その中で、将来設計を親子で語る、もっと親子で本気になって話ししてみてくださいよっていう話が載っています。最後に、「市全体で応援、糸魚川市で婚活支援を１０年やってきたが、イベントなどの開催者の力だけでは、予算を含めて限りがある。ポスター掲示やチラシ配布、声かけ、話題提供など、独身者に働きかけて、間接的なかかわりでいいので婚活の士気を高めていただきたい。」と。「細かく長く婚活支援を支援し続けているのはまちの熱意。地道でも続けてきた意味がある。」最後に、「行政・職員、そしてコーディネーター・市民・企業がお互いに情報を交換して知恵を出し合い、地域全体で婚活に対する意識と理解を高めていきたい。」というふうに書いてあります。私、まさにそうだろうと思います。

実は、そのコーディネーターの方とお話をさせていただきました。当初２０人ぐらいいた者が、今は８名ぐらいに減っていると。そして、縁結びをして、実のところ、婚約に、結婚にこぎつけた方がいる。そうすると、披露宴に呼ばれる。でも、女性だとお金がかかって、本当にボランティアだという話も聞いています。

やはり市として、ここらあたりに、もっと支援なり、やっぱり本気になって、本気だとは思うんですけど、もっとやっぱり積極的な支援が必要ではないかというふうに考えます。

今、地域支援員というような形がありますよね。私は、この婚活コーディネーターも、それに似た形のものができるんなら、逆言うと、その地域支援員の方が婚活コーディネーターになるというのも、１つの方法かもしれません。やはり何か、そんなことも考えていかなきゃいけないんじゃないかというふうに思います。その点、いかがでしょうか。

市長、ちょっと、もしよろしければ、意見をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤定住促進課長。　〔定住促進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（斉藤喜代志君）

婚活についてのお話で、確かに現在、コーディネーターさんは８名と、以前に比べれば少なくなっております。だんだん、コーディネーターさんとのお話の中でも、それぞれいろいろ自分の知り合いとかで、変な言い方ですけどネタ持ってると、いろいろと最初のころは、やっぱり成果も出てきたと。だんだん尽きてきたんだというようなお話もお伺いしております。なので、そういったいろんな友人、知人等でつながりのあるような方を、またコーディネーターとして迎え入れるというような仕組みも大事かなというふうに思っておりますし、先ほどありました、コーディネーターのほうでも成婚、いろいろコーディネーター頑張っていただいて、成婚に結びついた方については、謝礼金を、若干、払わせてはいただいております。そんなんで、我々のほうとしても支援は進めております。

今ほどご提案ありました、集落支援員等に婚活の部分っていうのもどうだというお話だと思いましたが、そういったあたり、どういうふうにできるか、集落支援制度の中でどこまで今後できるの

かとかいったあたりは、また検討させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

まさに、結婚をしていただいて子供をつくっていただく、それに対する支援が一番大事なような気がいたします。ぜひとも頑張っていただきたいと思います。

次、社会動態ということで、データなんかを見ると、もう極端な話、一くくり、転出と転入の人数だけ。この転出について、転入について、もっと細かな分析が必要だと思うんですけど、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤定住促進課長。　〔定住促進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（斉藤喜代志君）

転入・転出の内容なんですが、これは国と県のほうも、統一した形での移動の理由についての調査をしております。その中においては仕事で移動なのか、転入・転出なのか、住宅で移動、転出・転入なのかとか、学業とか家族の理由とか、そういった事由別になっております。かなり細かい数字にはなりますけど、そういったものの動向で、おおむね年間の中で、例えばやっぱり仕事が、３月ごろの転出・転入が多くて、転出が多いなというような、そういった分析等についてはできる状態ではあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

転出・転入について、やはり学生になって出ていく部分だとか、いわゆる転勤の部分でありますとか、もっと言うと、新幹線なんかできたときの工事で来る方もいるかもしれません。そんな大型工事があれば、そういう形で来る。あとは、住宅をこの近隣に建てたり糸魚川に建てて住まわれる方、逆に出ていく方もあるかと思います。あと、逆に結婚で出ていく方、旦那さんがこっちだけど上越から来る、逆に向こうに出ていく、いろんなことがあるかと思うんですけど、本当にそこの部分を分析してないと、私は、施策として全体にくくっちゃうと、ポイント的な施策にならないんじゃないかというふうに考えています。

その前に、ＵターンとかＩターンがありますけど、Ｕターンの定義、もしわかったら教えていただきたいと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤定住促進課長。　〔定住促進課長　斉藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（斉藤喜代志君）

厳密にいくとどこまでなのかっていう部分があるかと思うんですけど、基本的には、糸魚川の出

身者であって、一旦、糸魚川から離れた人が、糸魚川に戻ってこられると、そういったことがＵターンというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

まさにそうだろうと思うんですね。でも、その糸魚川の出身者をどう捉えるかによって、かなり違うんじゃないかと思うんですね。生まれた方が出身者なのか、１つのポイントを決めて、私が先ほど言うたように、中学卒業した方が、やはり出身者っていうふうに、１つに決めてデータをとっていく、そういう方法が必要なんじゃないかと思うんですね。生まれたからといって、２歳、３歳で出ていった方が出身者って言っても、余りピンとこないような気がします。ですから、そんな１つのデータのとり方として、あるんじゃないかというふうに思います。

先ほど、笠原議員の中でも、データという話がかなり言ってましたけど、私は、データをとって、それを解析しないと、本当の意味ではわからないんじゃないか。例えば転勤で来られる方、例えば総合庁舎におる方だとか、デンカなんかも結構、転勤がありますよね。そういうものも一緒くたに、全部転勤、転出・転入というふうにすると、分母が上がるだけですよね。やはり、そこらあたりをそれぞれ分析してみて、本当に糸魚川に定住していただける、逆に言うと、工事で来た方とか転勤・転出とか、そういうのは外して考えるべきではないかと思うんですね。

その中で、私は、やはり糸魚川で生まれ育った方が、この糸魚川に残ってくれるのが、一番やはり重要な施策だと思うんですけど、その点、いろんな事業をやってるけど、移住のほうが力が入ってるような気がして、もっとやっぱり糸魚川の方が残るような施策が必要のように感じます。やはり、糸魚川愛という部分で、消防団、少年消防団もつくっていただきました。まさにこれは糸魚川愛を生むような１つの施策ではないかと思います。

東中学のキャリア教育が、文科大臣表彰を受けましたけど、これもやはり糸魚川愛を生むの大きな事業ではなかったんではないかと思います。この東中学校の文科大臣表彰について、内容を、ちょっとお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　山本　修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本　修君）

お答えをいたします。

糸魚川東中学校は、今年度、第１１回キャリア教育優良教育委員会・学校及びＰＴＡ団体等文部科学大臣表彰を受けております。全国から１０９校の中の１校に選ばれております。県内では、中学校で唯一の受賞となっております。

キャリア教育につきまして、２年生での５日間の職場体験活動、また、子供参観日ですとか、地域貢献活動、それから地域行事への積極的な参加というものが認められての受賞というふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

私、教育委員会の定例会で、このことで宮川校長先生の話を聞きました。その後に、実際に東中学に出向いて聞きました。やはり、それによって何がって言ったら、やはり郷土愛っていうか、お父さんやお母さんの仕事ぶりがわかった。糸魚川が大事なんだなっていうことが、やはり感想の中に、子供の感想の中に述べられている。まさに、私、こういうことが糸魚川愛を生む大きな、糸魚川にそのまま居続けてくれる、大きな１つの柱ではないかというふうに考えております。子供、そう思うんなら、まさにそうだろうと思います。いろんなやはり、これは教育委員会のことですけど、定住促進課だけじゃなくて、やはり庁内一体、統一的なやはり、ことを必要なんじゃないかと思います。

同じ教育委員会の中で、先日、総合教育会議の中で、市長も出ておられたと思うんですけど、朝食を毎日食べていますかという方と、いわゆる学力を示したデータが出されてきました。まさに、朝食をとられる方は、やはり学業もいいと。逆にとらない者は、やはり学業が落ちるという、まさに、これはデータを使って分析した結果だと思うんですね。そういう面では、やはりデータを細かく、ただとるだけではなくて、もっと細かく解析してこそやはり、こういうものが出てくるんだろうと思うんです。

先日、これは商工農林水産課の企業支援室の主催で、進学・就職親子未来創造セミナーってものがありました。２月の１４日です、市民会館でありました。そのとき、私も傍聴させていただけませんかってことで、見にいきました。実は、残念なことに親子の方が２人、１組２人ですね、あと企業の方だと思うんですけど１人、私を含めて４人しか傍聴しておりませんでした。

実にすばらしい話してました。大学進学するには、１，０００万ぐらいかかるんだよっていうような話から、大学に進学してる方に糸魚川に戻ってくるには、いつごろ就職の情報を流せばいいのかとか、いろんなそんな話をしていただきました。その参加者、親子の参加者が知り合いでしたので、その子供に聞きましたけど、正直な話、こんなに大学行くことがお金がかかるとは思っていなかったと。かなりいい話をしてくれました。だけど、いわゆるこんなもんなんです。

また、ついおとといですか、農業研修会で鳥獣被害防止研修会がありました。これは、参加者はどれぐらいおりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

池田商工農林水産課長。　〔商工農林水産課長　池田　隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田　隆君）

お答えいたします。

私も、実は、それには参加できなくて、報告を受けておりますのは、大体１５０人ぐらい参加があったというふうに伺っております。話の内容についても有意義であったということで、報告をいただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

ありがとうございます。

まさに１５０人ぐらい、椅子に座るのがやっとというか、ちょうど準備していただいたぐらいにありました。

私、これを聞いて、まさに感じました。糸魚川で鳥獣被害が本当に大変なんだな。本当に身近な話題なんだ、だからあれだけの人数集まるんだろうと思うんですね。でも、婚活だとか何とかってのは、痛くないんですよね、毎日が。だから、やはりいろんな教育だとか、いろんな講習会だとか研修会とかやるんですけど、参加者が少ないんです。やはりこれを何とかしないと。

先ほどの話ですけど、この進学セミナー、まさにそのとき、高校２年生とか、さては中学生にこの話を聞かせたらもっといいんじゃないかというふうに言ってます。

どうですか、教育委員会もやっぱり、こういうふうなことを計画して、実は、ことし市内の３校が、高校の３校が集まって、市の企業の方といろんな話す機会も、私、参加させていただきましたけど、そういうものができてきたと思うんですけど、やはり定住という意味では、こういうふうなセミナーを高校と連携をとってやることが大事だと思います。その点、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

佐々木教育次長。　〔教育次長　佐々木繁雄君登壇〕

○教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

昨年、３校で、初めて集って、また関係者、また企業の方々も集まって会を持たせていただきました。ああいう場面を見ても、非常に高校が、３校は魅力づくりに向けて、非常に頑張ってるというのがよくわかっていただけたというふうに思っております。そういう意味も含めて、今後、３校をキャリア教育に向けて、また企業の訪問も１日から３日にふやしたという学校もありますので、そういう面についても支援をしてまいったり、こういう会を、また継続して進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。

○３番（山本　剛君）

私は、やはり笠原さんが言うように、まずデータ、データありきかと思います。来年、この人口ビジョンですか、それもつくるかというふうに聞いておりますけど、やはりこれは市独自で、毎年毎年、やっぱりこういう分析が必要なんじゃないかというふうに考えます。データをとって、もっと細かなデータをとって、細かなっていうかポジションごとの何かをとって、やはりそれに対して施策を考えていく。それが、本当の意味でのいい施策になるんじゃないかというふうに思います。ぜひとも、そんな形で進めていっていただきたいと思います。

次に、根知診療所についてですけど、我々清政クラブでも、この話をしましたら、いいねってい

うような話がありました。市民の方にも、何人か聞きますけど、やっぱりこれは有効だねというふうな話があります。できれば本当に、先ほど市長のほうから、いやっていうふうな話がありましたけど、いま一度、検討していただきたいというふうに思います。

最後に、公共交通ですけど、まさに高校生が乗らないです。お母さんが忙しい中で、本当に送っております。ぜひとも、試験的にやってみていただきたいというふうに思います。

これで、私の質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

吉川議員。　〔４番　吉川慶一君登壇〕

○４番（吉川慶一君）

おはようございます。清政クラブの吉川慶一です。

１、地域農業の取り組みについて。

３０年産米から米政策の見直しにより、需要に応じた米生産の推進、いわゆる農業者の自主的な経営判断を求めた上で、これまで４０年以上の米価の安定のために続けられてきた減反政策である生産数量目標の配分と、米の直接支払交付金７，５００円が廃止となります。

このことは、農地の多くを中山間地が占める当市の農業の現状を考えると、果たして農業経営が成り立つのか、高齢化の進む担い手の後継者は確保できるのか、結果、耕作放棄地がふえるのではないかと、大きな危機感を感じています。

また、イノシシを初めとする野生鳥獣による農産物への被害は、収入だけでなく耕作することへの意欲を減退させ、耕作放棄地の増大など農業の衰退につながることを懸念しています。以下の項目について伺います。

(1) 市内の認定農業者の数と年齢構成と、認定農業者数の動向と、また、現在までの推移・増減をお伺いします。

市内の農業者の１人当たりの耕作面積と、認定農業者、また、反別の農業者の割合をお伺いします。

(2) 新たな担い手を確保する取り組みについて、担い手の動向、現在、過去含めて移動状況の増減をお伺いします。

(3) 平成３０年度以降の農業所得の確保の取り組みについて伺う。

(4) 農作物の野生鳥獣の被害の課題と解決について。

(5) 行政はもっと猟友会や地域と力を合わせる、いわゆる協働の取り組みが重要ではないかと考えるが、具体的な取り組みを伺う。